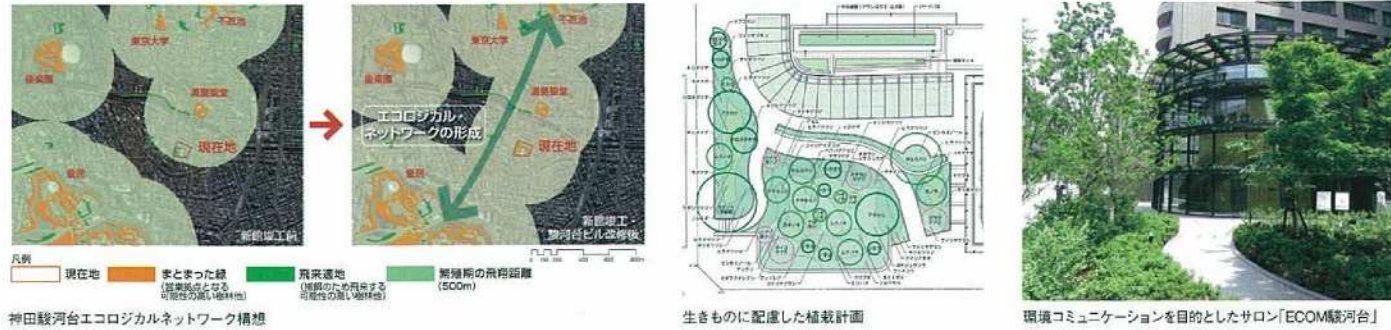


【事例紹介】

企業による生物多様性保全の取組み

三井住友海上駿河台ビル  
エコロジカルネットワークを再開発に活かす



三井住友海上駿河台地区再開発事業

2012年の駿河台新館竣工を機に新たな緑地が整備され、エコアセットではコンセプト設計から施工まで協力しています。計画に際して、皇居と上野の不忍池をつなぐ緑の中継地点として、エコロジカルネットワークの形成に貢献する緑地を目標としました。野鳥やチョウの食べものとなる実、蜜、虫などが採れる樹種を選定するなど、生きものたちの生息環境や都市景観への配慮の視点を取り入れて、都市にいながら「ひと」だけでなく「生きもの」も集まる場所を目指しています。

企業・地域連携

知多グリーンベルト生物多様性保全緑化計画

高度成長期に工業地帯で整備された大規模なグリーンベルト。当時は苗木主体であった緑地も現在は大きな森となり、生きものがすむ、地域の生態系の拠点となっているところもあります。愛知県知多市の臨海工業地帯の企業群では、それぞれの企業が所有するグリーンベルトの樹林を生きものが行き来できるエコロジカルネットワークとして一体的にとらえ、企業、学生、大学、NPO、自治体が協働して様々な取組みを行っています。愛知県は、2012年にインドで開催された生物多様性条約第11回締約国会議(COP11)の場で、この取組みを大きく紹介しました。エコアセットでは多様な主体が連携する仕組みの構築を支援するとともに、個別企業の生物多様性コンサルティングを実施しています。



生物多様性に配慮して整備された企業緑地



学生が中心となり、企業緑地取材して発行したフリーペーパー



お問い合わせ

エコアセット™・コンソーシアム ウェブサイト (<http://www.eco-asset.jp/>)

✉ info@eco-asset.jp

- 株式会社インターリスク総研 コンサルティング第一部 環境グループ
- 株式会社地域環境計画 生物多様性推進室
- 住友林業緑化株式会社 環境緑化事業部 東京営業部
- 住友林業株式会社 山林環境本部 山林・環境部

TEL : 03-5296-8913  
TEL : 03-5450-3700  
TEL : 03-6832-2202  
TEL : 03-3214-3250



2次元バーコード対応機種をお持ちの方はこちらから一部対応しない機種があります。



eco·asset

エコアセット™・コンソーシアム

近年、企業の生物多様性への配慮は、もはや自主的な「社会貢献」ではなく、「責務」になりつつあります。

企業価値を高めるためにも、積極的な取組みが求められています。

今ある企業緑地を活かし、持続的・計画的に地域の生物多様性に貢献することで、

企業価値、保有する緑地の資産価値を高めてみませんか。

エコアセット™・コンソーシアムは、「緑地資産活用」、「生物多様性保全」に関する

あらゆる企業ニーズにワンストップでお応えします。

企業緑地に眠る「宝物」を発掘し、「責任ある土地利用」を期待するステークホルダーに応える

“CSR 資産化”をお手伝いします。

エコアセット™・コンソーシアムは、インターリスク総研、地域環境計画、住友林業緑化、住友林業の4社が、共同で運営しているコンソーシアムです。

株式会社 インターリスク総研  
MS&AD INSURANCE GROUP

株式会社  
地域環境計画  
生きものと共生する地域づくり ちいかん

住友林業緑化

住友林業



# ベスクル・コンサルティング BESCLU (生物多様性保全型土地利用)

Biodiversity and Ecosystem Service Conservation through Land Use

## 生物多様性ポテンシャル評価

各事業所の土地利用を通じて、いかに地域の生態系へ貢献できるか、机上で簡易的に定量評価します。客観的な評価により、複数事業所の現状を比較して、優先的に取り組む事業所を選ぶなど、土地利用戦略の意思決定に必要な情報をご提供します。

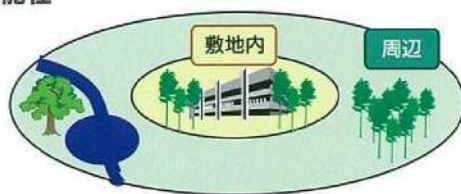
評価項目1 事業所の立地する地形×景観タイプ

評価項目2 周辺2km圏内の緑地の「被度・群度」

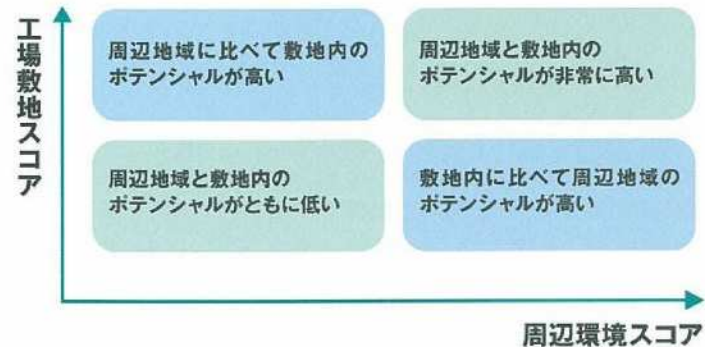
評価項目3 希少動植物の分布可能性

評価項目4 水域の状態

評価項目4 社会連携の可能性



事業所内、事業所周辺の評価を行い、ギャップを把握。



複数の事業所の評価結果を定量的に比較し、土地利用の戦略を検討します。

事業所ごとの生物多様性保全の方向性を絞り込み、具体的な取り組みを進めるための現地調査や計画をご提案します。

## 生態系ネットワーク迅速診断

事業所の緑地が地域の生態系とどのようなつながりがあるのかを「見える化」することで、事業所緑地にとどまらず、地域の生物多様性への貢献度をアップさせる方法をご提案します。

地図で「見える化」  
●地域生態系ネットワーク図化

過去から現在にいたる土地利用を解析し、事業所と周辺自然環境とのつながりを把握し、自然資源(緑地や水域など)の配置や量を図化することで、事業所を中心とした地域生態系ネットワークを「見える化」します。

生きもので「見える化」  
●指標種候補リストアップ

事業所や地域の自然環境を代表する生きもの(指標種)をリストアップします。指標種の生息状況により、生物多様性の状態が把握できます。また、向上に向けた取り組みを実施する際の目標にもなります。

●事業所土地利用(緑地、水環境等)方針

地域の生物多様性に貢献することを目指し、事業所の緑地の活用方法や水域への配慮をご提案します。既存緑地などを活かし、メリハリの利いた管理方法を採用することでコストを最小限に抑えます。

●従業員への教育プログラム

従業員が事業所の生物多様性の向上に積極的に取り組めるようなプログラムをご提案します。



## みどりの診断カルテ

さまざまな企業緑地に眠っている「宝物」を発掘し、CSR資産化を実現します。「みどりの診断カルテ」では、このノウハウを活かし、事業所の生物多様性保全型土地利用計画を具体的に策定します。



## 生物多様性教育プログラム

従業員が生物多様性を体感し、保全活動が社内に根付くしくみづくりをお手伝いします。遠く自然環境ではなく、事業所及び周辺を舞台にした身近な自然観察会から開始し、従業員参加型モニタリングができるような体制まで構築します。



## 業務実績(敬称略、五十音順)

IHI、出光興産、JX日鉱日石エネルギー、住友ゴム工業、ソニー、大同特殊鋼、デンソー、東芝、東レ、トヨタ自動車、パナソニック、日立製作所、富士通、ブリヂストン、三井住友海上火災保険 など